

# 図形領域における論証指導と 作図ツールの活用

石田 篤

指導教官：矢部敏昭

## ・研究の目的と方法

本研究の目的は、証明（あるいは論証幾何）にはどのような価値があるのかを明らかにし、そして、授業において、どのように作図ツールの活用を結びつけるか、について考察していくことである。

研究の方法として、まず、論証指導で問題とされていること、論証幾何の価値などを文献研究により明らかにし、そのような価値はどのような思考をすることにより得られるのかについて考察する。そして、そのような思考と作図ツールの活用の結びつきについて考察した後、具体的な題材を通じて、作図ツールの活用場面について考察し、この考察をもとに、活用の利点・問題点を分析する。最後に、作図ツールの活用へ向けた今後の課題を述べる。

## ・本論文の構成

はじめに

- 1 研究動機
- 2 研究の目的と方法

論証指導の問題点

- 1 中学校における問題
  - 1 - 1 証明の必要を感じない
  - 1 - 2 証明の難しさ
- 2 証明の必要を認識させる
  - 2 - 1 証明とは何か
  - 2 - 2 証明の必要性

論証幾何の価値

- 1 論証指導の問題点と論証幾何の価値
- 2 公理的な考え方とは
- 3 証明の本質の理解と生徒の行動の変容
- 4 証明に内在する価値
  - 4 - 1 「批判的に考える」とは
  - 4 - 2 「批判的に考える」を検証する
  - 4 - 3 証明に内在する価値

- 5 作図ツールの活用へ向けて「批判的に考える」ための題材と作図ツールの活用

- 1 作図ツールについて
  - 1 - 1 Cabri Geometry について
  - 1 - 2 作図ツールの機能
  - 1 - 3 作図ツールの役割
  - 1 - 4 作図ツールの位置づけ
- 2 「批判的に考える」とことと作図ツールの活用の結びつき
  - 2 - 1 重心を求める
  - 2 - 2 活動を通して「批判的に考える」
  - 2 - 3 活動を振り返る
  - 2 - 4 発展的な活動 重心の指導
  - 2 - 5 四角形の重心の位置を作図ツールを用いて考える
- 3 「批判的に考える」ための題材と作図ツールの活用

- 3 - 1 九点円の定理の証明のための準備
- 3 - 2 垂心の性質
- 3 - 3 九点円の定理とは
- 3 - 4 「批判的に考える」ために九点円の定理
- 3 - 5 九点円の定理の証明
- 3 - 6 星型五角形の問題と解法
- 3 - 7 「批判的に考える」ために星型多角形

作図ツールの活用上の利点と問題点

- 1 正三角形の発展問題について
- 2 九点円の定理について
- 3 星型多角形について
- 4 利点・問題点のまとめ

作図ツール活用の評価

- 1 作図ツール活用の評価（１）
- 2 条件の変更による問題づくり
  - 2 - 1 教科書で取り上げられている

## 問題とその解

- 2 - 2 問題の条件を分析する
- 2 - 3 問題を作りかえる
- 2 - 4 相似比と面積比の関係
- 2 - 5 評価のプロセス 条件の変更による問題づくり
- 3 格子点と面積の関係
  - 3 - 1 教科書の題材から
  - 3 - 2 格子多角形とは
  - 3 - 3 平行四辺形についての格子点と面積の定理
  - 3 - 4 格子点の個数と面積の関係を表す公式
  - 3 - 5 公式の成立を確認する
  - 3 - 6 面積に着目した証明
  - 3 - 7 内角の和に着目した証明
  - 3 - 8 評価のプロセス 格子点と面積の関係
- 4 作図ツール活用の評価(2)
  - 4 - 1 題材の比較から評価の観点を見出す
  - 4 - 2 評価の観点(2)に基づく評価のプロセス

## 研究のまとめと課題

- 1 各章のまとめ
- 2 今後の課題

(1ページ40字×40行, 71ページ)

## 研究の概要

### 3.1 「批判的に考える」とは

本研究で文献を取り上げた杉山吉茂氏、及びフォセットの考え方に基づき、「批判的に考える」とは、どのような考え方をすることを言うのか、その定義づけを試みた。それに先立ち、杉山氏の次の指摘を取り上げた。

『一般に、証明とは、ある判断の真なることを、既に正しいと認められた判断から論理的に導き出すことによって示すことであるとされる。この証明(あるいは論証)を意味する言葉として、proof と demonstration がある。まず、demonstration は、「表示する」という意味に根ざしており、真なることを「外へ向けて示す」ことを意味している。これに対して、proof は、「調べる」という意味から出ていて、「探り針で探る」という意味を持っている。すなわち、demonstration は「外へ」示すことを意味し、proof は「内へ」探りを入れていくことを意味する。』

これをもとに、「批判的に考える」ことの定義を試みた。本研究において、「批判的に考える」とは、proof の持つ意味のように、「内へ」探りを入れていくという立場に立って、数学的な思考を深めるための考え方、言い換えると、ある問題が解けたら終わりではなく、「本当にこれでよいのか」、「この条件を変えても問題が解決できるのではないか」、「他にも解法があるのではないか」などといった反省的な思考をもとにして、それらのことについて検討し、数学的な思考を深めていこうとする考え方をすること、と定義する。この考え方は、本研究で考察してきた論証幾何の価値を見出すために重要な考え方であると考えられる。

### 3.2 「批判的に考える」を検証する

ここでは、具体的な題材を例に取り上げ、上述の定義に基づいて、「批判的に考える」ことを検証していくことにする。次に取り上げる問題を、本研究において、「正三角形の発展問題」と名づけ、その証明を示す。

**問題** 正三角形  $ABC$  と、辺  $BC$  を  $C$  の方向に延長し、その上に点  $E$  をとって  $CE$  を1辺とする正三角形  $DCE$  がある。 $AE$  と  $BD$  を結ぶとき、 $AE = BD$  となることを証明せよ。

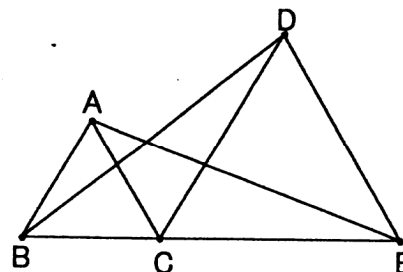


図 1

(証明)

$ACE$  と  $BCD$  で、  
 $ABC$ 、 $DCE$  はともに正三角形だから、  
 $AC = BC \dots$ 、 $CE = CD \dots$   
また、 $\angle ACE = \angle BCD$   
 $= 60^\circ + \angle ACD \dots$

より、2 辺とその間の角がそれぞれ等しいので、  
 $\triangle ACE \cong \triangle BCD$   
よって、 $AE = BD$  (q.e.d.)

この問題において、「批判的に考える」とは、次のようなことを考えることとしたい。

批判的に考える(1)

問題では、3点、C、Eが一直線上にあることが条件になっているにもかかわらず、証明においてはこの条件は使われていない。

3点B、C、Eは一直線上になくても $AE = BD$ はいえるのではないか。

この条件を変えても、証明の仕方はほとんど変わらないのではないか。

この考えをもとに、図2、図3における証明を考えると、図2については、前述の証明と全く同じになる。図3については、の条件を導く過程が次のように異なる。

$$\begin{aligned} \angle ACE &= \angle BCD \\ &= 60^\circ - \angle ACD \end{aligned}$$

このように考えることができるのは、上のように考えたことによるものとする。

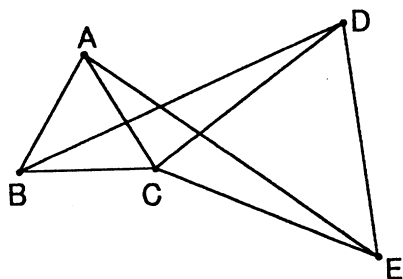


図 2

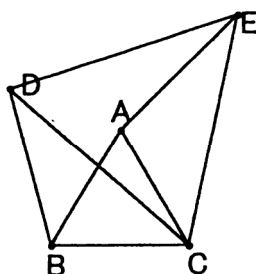


図 3

#### 批判的に考える(2)

AEとBDの交点をFとおくと、 $\angle ACB = \angle AFB = 60^\circ$ になるのではないか。(図4)  
正三角形という条件に依存するのではないか。  
正方形のときにはどうなるのか。

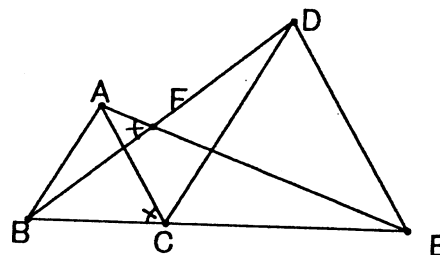


図 4

そこで、正三角形を正方形にすると、図5のようになる。

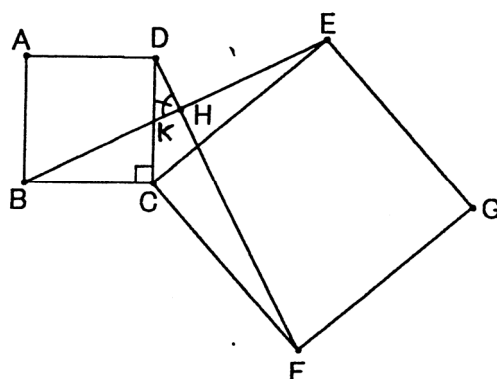


図 5

まず、 $BE = DF$ も同様の証明ができる。

(証明)

$\triangle BCE$ と $\triangle DCF$ で、

$ABCD$ 、 $EFCG$ はともに正方形だから、

$BC = DC$ ... ,  $CE = CF$ ...

また、 $\angle BCE = \angle DCF$

$= 90^\circ + \angle DCE$ ...

より、2辺とその間の角がそれぞれ等しいので、

$\triangle BCE \cong \triangle DCF$

よって、 $BE = DF$  (q.e.d.)

さらに、図5のように、BEとDFの交点をH、DCとBEの交点をKとする。このとき、 $\triangle BCK$ と $\triangle DHK$ に着目すると、上述の証明から、 $\angle BCK = \angle HDK$ 、さらに、 $\angle BKC$ と $\angle DKC$ は対頂角で等しいから、BEとDFのなす角は $90^\circ$ であることがわかる。これで、上述の疑問が解決されたことになる。

#### 批判的に考える(3)

$\angle ACB = \angle AFB$ より、2つの角はABを弧とする円周角と見ることができる。

4点A, B, C, Fは同じ円周上にあるのではないか。

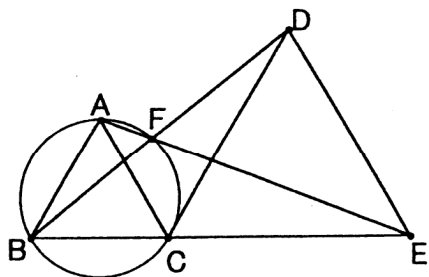


図 6

#### 批判的に考える(4)

批判的に考える(1)で  $\triangle DCE$ を、点Cを中心に回転させたが、交点Fはどのように動くか。

円を描くのではないか。

批判的に考える(3)の円(図6)と関係があるのではないか。

このように、「批判的に考える」においては、前述したように、内に探りを入れ、疑問をもつことから出発していると言える。つまり、問題を見返すことにより、問題に内在する価値を見出そうという考え方がそこにあると考えられる。

#### ・研究の結果

まず、論証指導においては、証明の必要を感じない、証明を難しいと感じる生徒が多くいるという問題、さらに、ある問題に対して、その証明ができればそれでよいと考える生徒や、正しい証明をして見せることをもって指導をしたものとする教師がいるという問題などがある。このような問題が生じる大きな原因として、証明に内在する価値を見出すことを意識した指導がなされていないことなどが考えら

れる。そこで、本研究において、「批判的に考える」こと、証明を見返すことが証明に内在する価値を見出すために必要であることを考察してきた。特に、「批判的に考える」ことは、証明以外の試行錯誤や、発展的な活動・探究といった活動を含むという点で重要であり、このような思考を生徒ができるような指導をすることが、今後、さらに重視されなければならないと考える。

また、作図ツールの活用にあたっては、本研究における「批判的に考える」と結びつけることが重要であると考えられる。本研究においても、いくつかの題材で実際に試行し、その中から、重心を求めるといった創造的活動には、作図ツールの活用は不向きであることを見出してきたが、本研究で扱っていない他の題材、例えば、座標平面に関する題材や空間図形に関する題材などについても、実際の試行を通して判断しなければならないと考える。本研究では、実際の授業における活用・試行は行っていないが、実際の試行の中でも授業における活用が最も重要であると考えられる。

そして、本研究では、特に、論証指導において「批判的に考える」と作図ツールの活用を結びつけて考察してきたが、どちらの価値も十分なものにするためには、本研究で考察してきたような作図ツール活用の利点・問題点を見出す、そして、作図ツールの活用を評価する、といったことが重要であると考えられる。そのようなことが教師に求められると同時に、この課題は、作図ツールの活用と同様、実際の試行を通して判断されなければならないと考えるものである。

#### 主要参考・引用文献

杉山吉茂. (1986). 公理的方法に基づく算数・数学の学習指導. 東洋館出版.